

安部公房生誕100周年



第74回ベルリン国際映画祭  
「ベルリナーレ・スペシャル」部門出品作品

# 箱男

## The Box Man

永瀬正敏 浅野忠信 白本彩奈 and 佐藤浩市  
渋谷清彦 中村優子 川瀬陽太

監督：石井岳龍

原作：安部公房「箱男」（新潮文庫刊）

脚本：いながききよたか 石井岳龍

製作：映画「箱男」製作委員会 制作プロダクション：コジトワークス

製作幹事・配給：ハビネットファントム・スタジオ

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）独立行政法人日本芸術文化振興会

©2024 The Box Man Film Partners

<https://happinet-phantom.com/hakootoko/>

@hakootoko\_movie



それは、人間が望む最終形態

Happinet  
HAPPINET-PHANTOM STUDIOS



”あの“悲劇から27年ついに今、我々は執念と奇跡を目撃する”  
世界的作家・安部公房が仕掛けた畏に監督・石井岳龍が挑む！

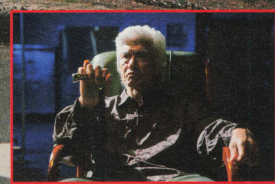
『箱男』——  
それは人間が望む最終形態。  
ヒーローか、アンチヒーローか

完全な孤立、完全な匿名性を得て、社会の螺旋から外れた「本物」の存在。ダンボールを頭からすっぽりと被り、街なか存在し、一方的に世界を覗き見る「箱男」。カメラマンである“わたし”(永瀬正敏)は、偶然目にした箱男に心を奪われ、自らもダンボールをかぶり、遂に箱男としての一步を踏み出すことに。しかし、本物の「箱男」になる道は険しく、数々の試練と危険が襲いかかる。存在を棄て取ろうとする二セ箱男(浅野忠信)、完全犯罪に利用しようとする軍医(佐藤浩市)、“わたし”を誘惑する謎の女・葉子(白本彩奈)…。果たして“わたし”は本物の「箱男」になれるのか。そして、犯罪を目論むニセモノたちとの戦いの行方は——!?

「箱男」とは、その著作が二十数か国に翻訳され熱狂的な読者を世界中に持つ作家・安部公房が1973年に発表した代表作。発表以降、幾度かヨーロッパやハリウッドの著名な映画監督らが映像化を試みたが、企画が立ち上がったは消えるなどを繰り返していた。そして1992年、最終的に安部本人から直接映画化を託されたのは、『狂い咲きサンダーロード』で衝撃的なデビューを飾り、ジャパン・インディ・シネマの最前線を駆け抜けてきた石井岳龍(当時:石井聰互)だった。そして1997年、遂に製作が正式に決定、スタッフ・キャストが撮影地のドイツ・ハンブルグに渡るも、クランクイン前日に突如頓挫、幻の企画となってしまう…。しかし、石井監督は諦めていなかった。悲劇から27年、奇しくも安部公房生誕100年にあたる2024年、遂に「箱男」を完成させたのだ。しかも、主演に27年前と同じ永瀬正敏、共演に同じく出演予定だった佐藤浩市、更に世界的に活躍する浅野忠信、数百人のオーディションで抜擢された白本彩奈も加わるという形で。本年のベルリン国際映画祭でワールドプレミアを迎え、“今年一番クレイジーな映画”と言わしめた本作がいよいよ日本に上陸する!箱という鎧をまとい、世界を我が物にしようとする箱男。その姿は、現代の私たちと「無関係」と言えるだろうか。そして最も驚くのは、50年前、安部公房はすでにこの世界を描いていたということだ——

# 箱男

# The Box Man



永瀬正敏 浅野忠信 白本彩奈 and 佐藤浩市 濱川清彦 中村優子 川瀬陽太 監督:石井岳龍 原作:安部公房『箱男』(新潮文庫) 脚本:いなぎきよたか 石井岳龍  
プロデューサー:小西啓介 関友彦 ラインプロデューサー:龍田隆治 撮影:浦田秀穂 照明:常谷良男 録音:古谷正忠 美術:林田裕至 編集:長瀬万里 VFX:井上清正 山田彩友美 カラリスト:カチョロフスキ・カオル  
音楽:藤永道雄 音響効果:藤原まさとし スタイリスト:小笠原吉恵 キャラクタースーパーバイザー(ヘアメイク):橋本伸二 助監督:佐藤康太郎 制作担当:飯塚香織 アシスタントプロデューサー:安部みさ子 制作:映画「箱男」製作委員会  
制作プロダクション:コギトワークス 製作幹事・配給:ハビネットファントム・スタジオ 助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)独立行政法人日本芸術文化振興会 ©2024 The Box Man Film Partners

8/23(fri) Roadshow